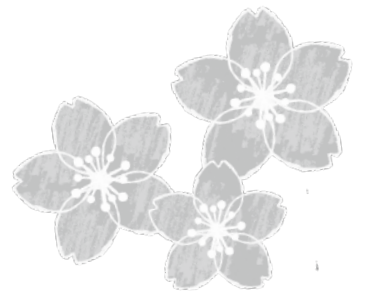


鳴立庵だより

鳴立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でございます。
初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているといわれるよ。



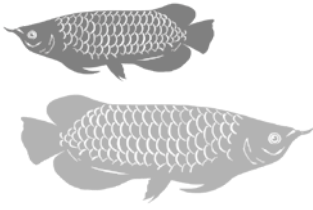
鳴立庵大使「えんいくん」



今月の俳句 1

アロワナの丸き背中や水の春

愛知県立時習館高等学校
山田 ひなの



季語は「水の春」「水」そのものより、付近の風景をも含めて連想させる効果がある。「アロワナ」は大型の淡水魚で飼育されているケースも多い。肩の辺りの丸み特徴的だ。

(鳴立庵庵主 本井 英)

今月の俳句 2

マフラーの軌跡残して
走りけり

中央大学杉並高等学校
林 真悠子



季語は「マフラー」で「冬」である。一句の狙いは「軌跡残して」。飛び跳ねるように駆けていく人物の、「マフラー」の残像が「軌跡」のように辿れるというのだ。生き生きとしている。

(鳴立庵庵主 本井 英)

今月の短歌

空を見てぼーっとしたまま動かない
何か不思議な空っぽの時間

岩沼市立岩沼中学校
三浦 快人

現代人は、科学の発達とともに、知らず知らずのうちに随分忙しい毎日を送っています。合理的だ、便利だといながら、次々に押し寄せて来る事態の処理に追われています。少年少女たちの暮らしも随分忙しくなっているのでしょう。ときには「ぼーっと」空を見上げていたときもあります。この作者は、見上げた空を讀者に伝えるのではなく、そのときの自分の感覚を「不思議な空っぽ」と表現しています。言葉にしたときに、時間がほんとうに不思議に思われてきます。

(西行祭選者 今井 恵子)

「めいど いん おおいそ」 登録産品紹介

問 大磯らしい潤いづくり協議会 (大磯町商工会)
☎ (61) 0871

ご当地登録産品
OISO
Made in OISO

【AUI-AŌ Design】
問合せ先：HPはこちら



大磯の一筆箋

【湘南大磯 パンの蔵】
問合せ先：(61) 4441



あおばとサブレ